2015 年 5 月 14 日
北陸電力株式会社

第 6 回志賀原子力発電所敷地内破砕帯の調査に関する
有識者会合における当社コメント

2015 年 5 月 13 日に開催された第６回有識者会合において、「敷地内シームの活動性は否定できない」とする有識者の見解が示され、次回会合にて評価書案が提示されることになりました。当社が 2012 年 8 月から実施してきた詳細な調査・分析に基づく「敷地内シームは『将来活動する可能性のある断層等』ではない」という当社の見解が認められなかったことは極めて残念です。

当日の有識者会合では、当社が行ったトレンチ等の調査について、各々の上載地層に変位がないことも含め、Ｓ－１、Ｓ－２・Ｓ－６が後期更新世以降（12～13 万年前以降）に明確に動いた証拠は確認できなかったことが、有識者間で同意されています。

しかしながら、今回の追加調査の発端となった志賀原子力発電所１号機建設当時の旧ＡＢトレンチのスケッチ図におけるＳ－１の活動性に加え、Ｓ－２・Ｓ－６についても、一定の仮定を交え、「敷地内シームの活動性は否定できない」との有識者の見解が示されました。

当社としては、今回の有識者の方々のご意見に対する具体的な見解を早急にとりまとめ、ご説明してまいります。その上で、当社がこれまで実施してきた調査結果等、客観的なデータに基づき、総合的にご判断いただければ、必ずやご理解いただけるものと考えております。

以　上